

大麦管理情報 (第3号)

令和6年12月2日
農業技術課広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

平均気温は、平年に比べ、11月中旬が12.8℃（平年差+1.8℃）と高く、11月下旬が9.3℃（同一0.1℃）と並であった（図1）。

(2) 降水量

降水量は、平年に比べ、11月中旬が35.0mm（平年比42%）とかなり少なく、11月下旬が152.5mm（同197%）とかなり多かった（図2）。

(3) 全天日射量

平均全天日射量は、平年に比べ、11月中旬が7.9MJ/m²/日（平年比122%）と多く、11月下旬が5.6MJ/m²/日（同92%）と並であった。

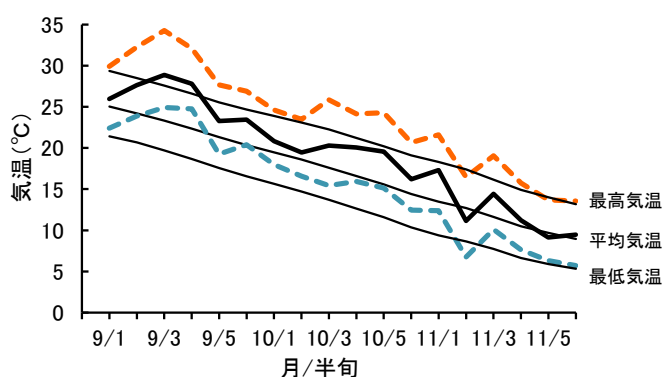


図1 気温の推移 (富山地方気象台)

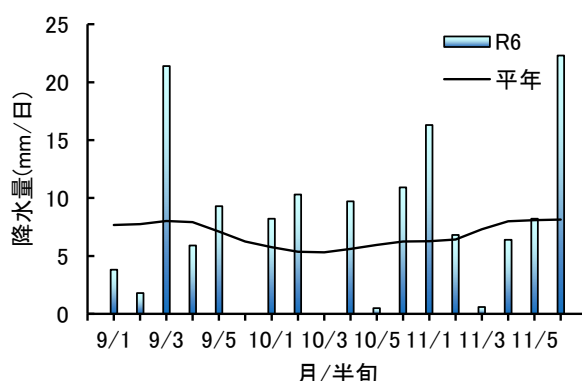


図2 降水量の推移 (富山地方気象台)

2 生育概況

- ・平年に比べ、草丈は長く（平年比117%）、茎数は少なく（平年比86%）、葉齢は1.2葉進んでおり、葉色（SPAD）はかなり淡くなっている（平年差-5.5）なっている（表1、図3・4）。
- ・10～11月に降水量が多かったことから、一部のほ場で湿害による黄化症状がみられる。

表1 大麦の生育状況 (12月2日)

	播種期 (月/日)	苗立数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
				(本/株)	(本/m ²)		
7年産	10/2	164	32.7	3.6	605	7.5	33.3
6年産	10/7	167	30.6	3.9	647	6.4	36.0
平年	10/6	175	28.0	4.0	702	6.3	38.8

注) 調査ほ場数：10、播種様式はすべてドリル播き、平年はH27～R6年産の平均

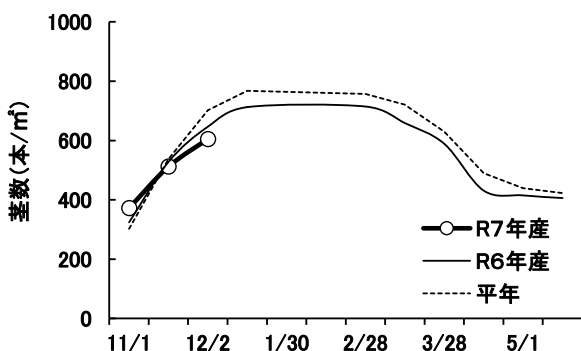


図3 茎数の推移

注) 平年はH27～R6年産の平均

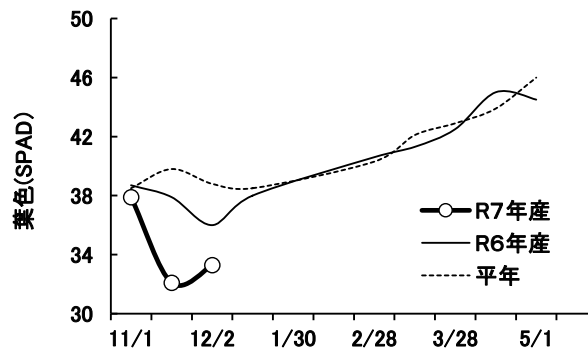


図4 葉色の推移

注) 平年はH27～R6年産の平均

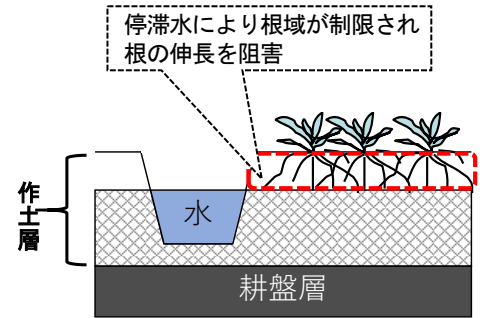
3 当面の技術対策

(1) 排水対策の徹底

積雪前に必ずほ場の排水状況を点検し、雨水や雪解け水がほ場内に停滞しないように、排水溝の手直しを行い、深く掘り下げた排水口への連結を徹底する。

【排水不良のほ場】

溝に水がたまっている



排水溝の高い部分や埋まりを取り除き、排水口へ連結する



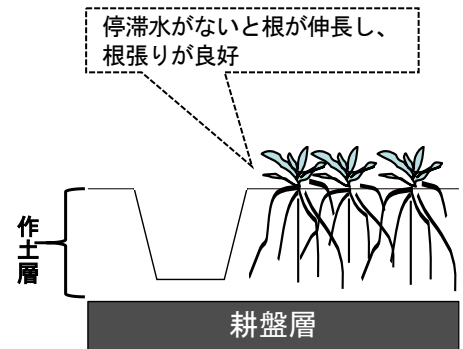
排水口へ



排水口

【排水良好のほ場】

ほ場内に停滞水がない



(2) 年内追肥

【肥効調節型体系】

基肥量が基準より少ない等で極端に葉色が淡くなった場合を除き、原則年内追肥は実施しない。

【分施肥体系】

年内追肥は原則として、播種後1か月頃の1回のみとするが、12月初めの生育が茎数500本/m²以下、かつ、葉色がSPAD値で30以下のほ場では、窒素成分で10a当たり2kg以内の追肥を施用する。